

讚陽
三
体
千
字
文

三體千字文

天地玄黄宇宙洪荒

天地玄黄宇宙洪荒

天地玄黄宇宙洪荒

日月盈昃
辰宿列張

日月盈昃
辰宿列張

日月盈昃
辰宿列張

寒來暑往秋收冬藏

寒來暑往秋收冬藏

寒來暑往秋收冬藏

閏餘成歲律呂調陽

閏餘成歲律呂調陽

玉作來柔律呂調陽

雲騰致雨露結為霜

雲騰致雨露結為霜

雲騰致雨露結為霜

金生麗水玉出崑岡

金生麗水玉出崑岡

金生麗水玉出崑岡

劍號巨闕
珠稱夜光

劍號巨闕
珠稱夜光

劍號巨闕
珠稱夜光

果珍李柰菜重芥薑

果珍李柰菜重芥薑

果珍李柰菜重芥薑

海鹹河淡鱗潛羽翔

海鹹河淡鱗潛羽翔

海鹹河淡鱗潛羽翔

龍師火帝鳥官人皇

龍師火帝鳥官人皇

龍師火帝鳥官人皇

始制文字乃服衣裳

始制文字乃服衣裳

始制文字乃服衣裳

推位讓國有虞陶唐

推位讓國有虞陶唐

推位讓國有虞陶唐

推位讓國
有虞陶唐

吊民伐罪周發殷湯

吊民伐罪周發殷湯

吊民伐罪周發殷湯

坐朝問道垂拱平章

坐朝問道垂拱平章

坐朝問道垂拱平章

愛育黎首臣伏戎羗

愛育黎首臣伏戎羗

愛育黎首臣伏戎羗

遐迹壹體率賓歸王

遐迹壹體率賓歸王

遐迹壹體率賓歸王

鳴鳳在樹白駒食場

鳴鳳在樹白駒食場

鳴鳳在樹白駒食場

化被草木賴及萬方

化被草木賴及萬方

化被草木賴及萬方

盖此身髮四大五常

盖此身髮四大五常

盖此身髮四大五常

恭惟鞠養豈敢毀傷

恭惟鞠養豈敢毀傷

恭惟鞠養豈敢毀傷

女慕貞絜男效才良

女慕貞絜男效才良

女慕貞絜男效才良

知過必改得能莫忘

知過必改得能莫忘

知過必改得能莫忘

罔談彼短靡恃已長

罔談彼短靡恃已長

罔談彼短靡恃已長

信使可覆器欲難量

信使可覆器欲難量

信使可覆器欲難量

墨悲絲染詩讚羔羊

墨悲絲染詩讚羔羊

墨悲絲染詩讚羔羊

景行維賢 剋念作聖

景行維賢 剋念作聖

景行維賢 剋念作聖

德建名立形端表正

德建名立形端表正

德建名立形端表正

空谷傳聲
虚堂習聴

空谷傳聲
虚堂習聴

空谷傳聲
虚堂習聴

禍曰惡積福緣善慶

禍曰惡積福緣善慶

禍曰惡積福緣善慶

尺璧非寶寸陰是競

尺璧非寶寸陰是競

尺璧非寶寸陰是競

尺璧非寶 寸陰是競

資父事君曰嚴與敬

資父事君曰嚴與敬

資父子曰嚴與敬

孝當竭力 忠則盡命

孝當竭力 忠則盡命

孝當竭力 忠則盡命

臨深履薄夙興溫清

臨深履薄夙興溫清

臨深履薄夙興溫清

似蘭斯馨如松之盛

似蘭斯馨如松之盛

似蘭斯馨如松之盛

似蘭斯馨
如松之盛

川流不息
淵澄取映

川流不息
淵澄取映

川流不息
淵澄取映

容止若思言辭安定

容止若思言辭安定

容止若思言辭安定

容止若思
言辭安定

篤初誠美慎終宜令

篤初誠美慎終宜令

篤初誠美慎終宜令

榮業所基藉甚無竟

榮業所基藉甚無竟

榮業所基藉甚無竟

學優登仕攝職從政

學優登仕攝職從政

學優登仕攝職從政

存以甘棠
去而益詠

存以甘棠去而益詠

存以甘棠去而益詠

存以甘棠去而益詠

樂殊貴賤禮別尊卑

樂殊貴賤禮別尊卑

樂殊貴賤禮別尊卑

上和下睦夫唱婦隨

上和下睦夫唱婦隨

上和下睦夫唱婦隨

外受傳訓入奉母儀

外受傳訓入奉母儀

外受傳訓入奉母儀

諸姑伯姝猶子比兒

諸姑伯姝猶子比兒

諸姑伯子松子心兒

諸姑伯叔 猶子比兒

孔懷兄弟同氣連枝

孔懷兄弟同氣連枝

孔懷兄弟同氣連枝

交友投分切磨箴規

交友投分切磨箴規

交友投分切磨箴規

仁慈隱惻造次弗離

仁慈隱惻造次弗離

仁慈隱惻造次弗離

節義廉退顛沛匪虧

節義廉退顛沛匪虧

節義廉退顛沛匪虧

性靜情逸
心動神疲

性靜情逸
心動神疲

性靜情逸
心動神疲

守真志滿逐物意移

守真志滿逐物意移

守真志滿逐物意移

堅持雅操好爵自縻

堅持雅操好爵自縻

堅持雅操好爵自縻

都邑華夏東西二京

都邑華夏東西二京

都邑華夏東西二京

背芒面洛浮渭據涇

背芒面洛浮渭據涇

背芒面洛浮渭據涇

宮殿
殿股石
盤爵樓
觀飛
驚馬

宮殿
殿股石
盤爵樓
觀飛
驚馬

宮殿
殿股石
盤爵樓
觀飛
驚馬

畜寫禽獸畫綵仙靈

畜寫禽獸畫綵仙靈

圖寫禽獸畫綵仙靈

丙舍傍啓甲帳對楹

丙舍傍啓甲帳對楹

丙舍傍啓甲帳對楹

肆筵設席鼓瑟吹笙

肆筵設席鼓瑟吹笙

肆筵設席鼓瑟吹笙

肆筵設席
鼓瑟吹笙

升階納陞弁轉疑星

陞階納陞弁轉疑星

升階納陞弁轉疑星

右通廣內左達承明

右通廣內左達承明

右通廣內左達承明

既集墳典亦聚群英

既集墳典亦聚群英

既集墳典亦聚群英

杜橐鍾隸涑書壁經

杜橐鍾隸涑書壁經

杜橐鍾隸涑書壁經

府羅將相路俠槐卿

府羅將相路俠槐卿

府羅將相路俠槐卿

戶封八縣家給千兵

戶封八縣家給千兵

戶封八縣家給千兵

高冠陪輦驅轂振纓

高冠陪輦驅轂振纓

高冠陪輦驅轂振纓

高冠陪輦

驅轂振纓

世祿侈富車駕肥輕

世祿侈富車駕肥輕

世祿侈富車駕肥輕

策功茂實勒碑刻銘

策功茂實勒碑刻銘

策功茂實勒碑刻銘

磻溪伊尹佐時阿衡

磻溪伊尹佐時阿衡

磻溪伊尹佐時阿衡

奄宅曲阜微旦孰營

奄宅曲阜微旦孰營

奄宅曲阜微旦孰營

桓公匡合濟弱扶傾

桓公匡合濟弱扶傾

桓公匡合濟弱扶傾

綺迴漢惠說感武丁

綺迴漢惠說感武丁

綺迴漢惠說感武丁

俊又密勿多士寔寔寧

俊又密勿多士寔寔寧

俊又密勿多士寔寔寧

晉楚更霸趙魏困橫

晉楚更霸趙魏困橫

晉楚更霸趙魏困橫

假途滅虜踐土會盟

假途滅虜踐土會盟

假途滅虜踐土會盟

何遵約法韓弊煩刑

何遵約法韓弊煩刑

何遵約法韓弊煩刑

起翦頗牧用軍最精

起翦頗牧用軍最精

起翦頗牧用軍最精

宣威沙漠馳譽丹青

宣威沙漠馳譽丹青

宣威沙漠馳譽丹青

九州禹跡百郡秦并

九州禹跡百郡秦并

九州禹跡百郡秦并

嶽宗恒岱禪主云亭

嶽宗恒岱禪主云亭

嶽宗恒岱禪主云亭

雁門紫塞雞田赤城

雁門紫塞雞田赤城

雁門紫塞雞田赤城

昆池碣石鉅野洞庭

昆池碣石鉅野洞庭

昆池碣石鉅野洞庭

曠遠綿邈巖岫杳冥

曠遠綿邈巖岫杳冥

曠遠綿邈巖岫杳冥

治本於農務茲稼穡

治本於農務茲稼穡

治本於農務茲稼穡

併載南畝我藝黍稷

併載南畝我藝黍稷

併載南畝我藝黍稷

稅熟貢新
勸賞黜陟

稅熟貢新
勸賞黜陟

稅熟貢新
勸賞黜陟

孟軻敦素史魚秉直

孟軻敦素史魚秉直

孟軻敦素史魚秉直

庶幾中庸勞謙謹勅

庶幾中庸勞謙謹勅

庶幾中庸勞謙謹勅

聆音察理
鑑貌辯色

聆音察理
鑑貌辯色

聆音察理
鑑貌辯色

貽厥嘉猷勉其祗植

貽厥嘉猷勉其祗植

貽厥嘉猷勉其祗植

貽厥嘉猷

勉其祗植

省躬譏誠寵增抗極

省躬譏誠寵增抗極

省躬譏誠寵增抗極

省躬譏誠

寵增抗極

殆辱近耻
林臯幸即

殆辱近耻
林臯幸即

殆辱近耻
林臯幸即

殆辱近耻
林臯幸即

兩疏見機解組誰逼

兩疏見機解組誰逼

兩疏見機解組誰逼

兩疏見機
解組誰逼

索居閑處沈默寂寥

索居閑處沈默寂寥

索居閑處沈默寂寥

求古尋論散慮逍遙

求古尋論散慮逍遙

求古尋論散慮逍遙

欣奏累遣感謝歡招

欣奏累遣感謝歡招

欣奏累遣感謝歡招

欣奏累遣
感謝歡招

渠荷的歷園莽抽條

渠荷的歷園莽抽條

渠荷的歷園莽抽條

渠荷的歷

園莽抽條

枇杷晚翠
梧桐早彫

枇杷晚翠
梧桐早彫

枇杷晚翠
梧桐早彫

陳根委翳落葉飄颻

陳根委翳落葉飄颻

陳根委翳落葉飄颻

陳根委翳

落葉飄颻

遊鷗獨運凌摩絳霄

遊鷗獨運凌摩絳霄

遊鷗獨運凌摩絳霄

耽讀翫市寓目囊箱

耽讀翫市寓目囊箱

耽讀翫市寓目囊箱

易輶攸畏屬耳垣牆

易輶攸畏屬耳垣牆

易輶攸畏屬耳垣牆

具膳滌飯適口充腸

具膳滌飯適口充腸

具膳滌飯適口充腸

具膳滌飯

適口充腸

飽 餒 烹 宰 飢 厭 糟 糠

飽 餒 烹 宰 飢 厭 糟 糠

飽 餒 烹 宰 飢 厭 糟 糠

飽 餒 烹 宰

飢 厭 糟 糠

親戚故舊老少異糧

親戚故舊老少異糧

親戚故舊老少異糧

妾御績紡侍巾帷房

妾御績紡侍巾帷房

妾御績紡侍巾帷房

妾御績紡
侍巾帷房

紈扇圓潔銀燭煒煌

紈扇圓潔銀燭煒煌

紈扇圓潔銀燭煒煌

紈扇圓潔
銀燭煒煌

晝眠夕寐
藍筍象床

晝眠夕寐
藍筍象床

晝眠夕寐
藍筍象床

弦歌酒讌接杯舉觴

弦歌酒讌接杯舉觴

弦歌酒讌接杯舉觴

絃歌酒讌

接杯舉觴

矯手頓足
悅豫且康

矯手頓足
悅豫且康

矯手頓足
悅豫且康

嫡後嗣續祭祀蒸嘗

嫡後嗣續祭祀蒸嘗

嫡後嗣續祭祀蒸嘗

嫡後嗣統
祭祀蒸嘗

稽顙再拜悚懼恐惶

稽顙再拜悚懼恐惶

稽顙再拜悚懼恐惶

牋牒簡要顧答審詳

牋牒簡要顧答審詳

抄撰著要顧答審詳

骸垢想浴執熱願涼

骸垢想浴執熱願涼

骸垢想浴執熱願涼

骸垢想浴
執熱願涼

馬 驢 騾 犢 特 駭 躍 超 驤

驢 騾 犢 特 駭 躍 超 驤

驢 騾 犢 特 駭 躍 超 驤

驢 騾 犢 特
駭 躍 超 驤

誅斬賊盜捕獲叛亡

誅斬賊盜捕獲叛亡

誅斬賊盜捕獲叛亡

布射遼丸嵇琴阮嘯

布射遼丸嵇琴阮嘯

布射遼丸嵇琴阮嘯

恬筆倫紙鈞巧任鈞

恬筆倫紙鈞巧任鈞

恬筆倫紙鈞巧任鈞

釋紛利俗並皆佳妙

釋紛利俗並皆佳妙

釋紛利俗並皆佳妙

毛施淑姿工嘖妍笑

毛施淑姿工嘖妍笑

毛施淑姿工嘖妍笑

年矢每催曦暉朗曜

年矢每催羲暉朗曜

年矢每催羲暉朗曜

旋璣懸斡
晦魄環照

旋璣懸斡
晦魄環照

旋璣懸斡
晦魄環照

指薪脩祐永綏吉劬

指薪脩祐永綏吉劬

指薪脩祐永綏吉劬

指薪脩祐 永綏吉劬

矩步引領俯仰廊廟

矩步引領俯仰廊廟

矩步引領俯仰廊廟

東帶矜莊徘徊瞻眺

東帶矜莊徘徊瞻眺

東帶矜莊徘徊瞻眺

孤陋寡聞愚蒙等語

孤陋寡聞愚蒙等語

孤陋寡聞愚蒙等語

謂語助者焉哉乎也

謂語助者焉哉乎也

謂語助者焉哉乎也

謂語助者 焉哉乎也

讚陽道人書



千字文 講義

天地玄黄。宇宙洪荒。

天の色は玄乃ち黒く、地の色は黄乃ち黄なり、宇宙は空乃ち大なる間をいひ、洪荒とは共に大なる間をいふ。此の二句及び以下八句は天文を説きたるなり。

日月盈昃。辰宿列张。

盈とは満つることにて昃とは傾くことなり、日は中して西にかたむき、月出づれば漸くにかくるをいふ。又辰は天のかたむき、月出づれば漸くにかくるをいふ。日月と共に列り懸るをいふ。二十八宿にして共に星の座なり。

寒来暑往。秋收冬藏。

往は去ることなり、寒来れば暑さ去り、四時循環してかぎりなきをいふ。又秋に至れば春夏の候に種まき植ふたるものを取り入れ収め、冬に至ればこれを蔵し納むるをいふ。

閏餘成歲。律呂調陽。

古の曆はすべて月を本として作れるなり、すなはち四年に一度閏月をおきて歳を定めしをいふ。又律呂とは四年に一度調子を定めしをいふ。又律呂とは氣節に配して陰陽の氣を調へるをいふなり。

雲騰致雨。露結為霜。

地上の水気大空に立ちのぼり雲となり、冷氣にあへば雨となりて再び地上に降り来る、又氣候漸く冷かに結ばりて霜となるをいへるなり。其の露が寒氣にあへば

金生麗水。玉出崑崗。

古、中国にては、麗水と名づけし河中より多くの沙金の出しにより、金は麗水と名づけし河中より多くの沙金を出しにより、玉は崑崗より出づといへるなり。

劍號巨闕。珠稱夜光。

古より世に知られたる、趙の国の名劍にて、巨闕と銘せしものも、もとは地中より産出する鉄をきたへて作珠も、同じ地中より掘り出せるものなるをいふ。夜光の作

果珍二李。菜重三芥。薑一。

果物は地に生ずる草木に実るものなるが、其の中に李と奈を最も珍とし、また野菜も種々多くあれども、中国にては、芥と薑とを第一として重んずるをいふ。

海鹹河淡。鱗潛羽翔。

水には海の水と河の水とあり、而して海の水は、しほからく、河の水は、あはくして塩氣を含まず、又鱗は魚類は水中を潜みて住み、羽乃ち鳥類は空中を棲かとして飛ひけるをいふ。

龍師火帝。鳥官人皇。

中国の上古伏羲の時に竜馬図を負ふて出づ、因て伏羲を龍師といひ、燧人氏は火食を教へしより官に名づけ、人皇とは天皇地皇人皇の時に鳳凰出でしより官

始制文字。乃服衣裳。

上古には文字なく繩を結びて約束又はしるしになせしが、蒼頡といふ人、鳥の足跡を見て始めて文字を作し、蒼頡といふ人、鳥の足跡を見て始めて文字を作し、作するに至れるをいふ。

推位讓國。有虞唐陶。

前句の如く世の進むにつれて仁義道徳の教へを重んめられたり、乃ち帝堯陶唐氏は舜を推して位に即かし、帝舜有虞氏は禹を挙げて國を譲られたるをいふ。

弔民伐罪。周發殷湯。

弔とは恤れみ慰むることにして、暴虐なる君を誅伐して人民を塗炭の苦しみより救ひしことなり。乃ち殷湯は暴君夏桀を誅し、周の武王発は、殷の紂王を誅して人民を助け安んぜしをいふ。

坐朝問道。垂拱平章。

聖賢なる人君は、朝廷に坐して天下國家を治むるの道を臣下に問ひ諮りて政を行ひ給へるなり、されば衣を垂れ手を拱きて天下は自ら平らかに章らかに、治まれるをいふ。

愛育黎首。臣伏戎羌。

黎首とは蒼生といふに同じく万民のことなり、仁君世を知しめたるを愛し育くみ給ふことなり、仁君戎寇を知らしめたるを愛し育くみ給ふことなり、仁君ひ来りて臣下となりて服従せるをいふ。

遐邇一體。率賓歸王。

遐とは遠きをいひ、邇とは近きをいふ、仁君の徳化は遠近の別なく一体に及びぬるを以て普天の下率土の賓乃ち國土のはてまでもすべて王化に帰伏せるをいふ。

鳴鳳在樹。白駒食場。

聖賢なる人君世を知しめたるより天下は太平の瑞兆として、鳳凰は来りて木にやどりて鳴き、白駒は出でて牧場に食む、乃ち徳の禽獸にまでも及べるをいふ。

<p>化被二草木一。頼及二萬方一。</p>	<p>蓋此身髮。四大五常。</p>	<p>恭惟二鞠養一。豈敢毀傷。</p>	<p>女慕二貞潔一。男效二才良一。</p>	<p>知過必改。得能莫忘。</p>	<p>閑談二彼短一。靡待二己長一。</p>	<p>信使可覆。器欲難量。</p>	<p>墨悲二絲染一。詩讚二羔羊一。</p>	<p>景行維賢。克念作聖。</p>
<p>斯くの如く国家治まり、人民安らかに、徳化は禽獸に及ぶのみならず、其の恵みの露は草木にも及びば、其のさいはひは、引いて宇宙の万物にまでも及びば、其のいふ。</p>	<p>蓋し此の身髮、乃ち、我が身体髮膚は思ふに母より受けたるものなれども、四大乃ち地水火風の陰陽の和合より成り、一小天地を象せられるものなれば、五常乃ち仁義礼智信の道を守るべきなり。</p>	<p>されば恭しき謹みて父母が此の身をはぐくみ養ひ給ひし大恩を思ひみだして、豈に何として此の身体髮膚を給はずつけやぶるなどの行ひありてなるべき、これ孝道の第一義なりといへるなり。</p>	<p>女乃ちすべての婦人は、貞操と潔白との行ひを慕ひて、善良とを根本としてこれにならひ、仮にも悪しき行能とを善とを戒めたるなり。</p>	<p>凡人と知れば必ず過ちなきを保し難し、されば若しも過ちと知りたるならば、必ず速かにこれを改めざるべからず、又能とは人の必ず行ふべき道に於て、これを知り得たらば決して忘るべからざるをいふ。</p>	<p>他人の短所を知ればたゞとて、必ず其を己れのとへり、得意とすることを自慢することはならぬと戒めたるなり。</p>	<p>信とは真実なり、一旦人と約したることは必ず実行すべからしむ可きを期すべし、又器とは器量なり、己れの器量を見ても他人に見すかされてはならぬ、奥床しければ他の畏敬を受くといへるなり。</p>	<p>むかし墨子といへる賢人は、白き糸の種々の色に染まるを見て悲しむを期すべし、それは人々も染むるに染むるに似し、周の文王の徳の南国に及ぶるを称讃せしなり。</p>	<p>景とは大なるなり、明らかなるなり、明らかに大いなる行ひある人は必ず、明らかなるなり、明らかに大いなる聖人の言行を思ひ、念々忘れざれば、又よく古の聖人となるを得べしといへるなり。</p>
<p>徳建名立。形端表正。</p>	<p>空谷傳聲。虚堂習聽。</p>	<p>禍因二惡積一。福縁二善慶一。</p>	<p>尺璧非寶。寸陰是競。</p>	<p>資父事君。曰嚴與敬。</p>	<p>孝當竭レ力。忠則盡レ命。</p>	<p>臨深履薄。夙興溫清。</p>	<p>似蘭斯馨。如二松之盛一。</p>	<p>川流不息。淵澄取映。</p>
<p>人が徳行を建つれば、其の行ひ自ら世に知れ、随つて其の名もまた著はる、乃ち其の形乃ち容姿が端正なるときは、其の表乃ち影も正しく映る如しといへるなり。</p>	<p>たとへて言へば、空谷に於て声を発すれば、こだまとなりて其の声を伝ふる如く、又何物もなき広き堂にて、音を発すれば、其の響は満堂に聞ゆる如しといへるなり。</p>	<p>人の福善を被むることは、己れが悪しき行ひの積もりし結果なれば、日常悪しき行ひなきやう慎まねばならぬ。又幸福の来るも善事を行ひたる賜ものなれば、勉めて善き行ひをすべしといへるなり。</p>	<p>一尺もある程の玉は、世に稀れるものなれど、決して貴ぶべきものではない。堅る寸乃ち僅かなる光陰し、是れこそ其の宝といふべきなり。</p>	<p>わが父母に事ふるの道を以て君につかへまつるべりし、必ず世に忠臣と称せらるべし、これは孝経より取ていつくしむとやまふとにある。</p>	<p>孝とは如何なる行ひかといふに、論語にも言へる如く、己れの力の及ぶ限り父母の教訓を守り法に背かず、行ひを正しくして奉養するをいふ。忠とは則ち身命を抛ちて君命を重んじ奉養するをいふ。忠とは則ち身命を注意す。</p>	<p>忠孝の道は、容易ならぬことで、あたかも深き淵に臨むが如く、薄き氷を履むが如く、小心翼々と謹み慎み行はねばならぬ、たとへば朝早く起きて君父の命を否を伺ひ、冬はあたたかたかにし、夏は清涼ならんことに注意す。</p>	<p>上米述べたるが如く忠孝の道を尽さんには、たとへば蘭の幽谷に生じて芳香を放つて古の松の盛んな如く、人に慕はれ仰がれるべしといへるなり。</p>	<p>しかし忠孝は一旦の行ひを以つて足れりすとすべからず、川の流れれて千古息む時なきが、万の影の映るが如く、飾りなく真心を尽くして行へといへるなり。</p>

<p>容止若思。言辭安定。</p>	<p>篤初誠美。慎終宜令。</p>	<p>榮業所基。籍甚無竟。</p>	<p>學優登仕。攝職從政。</p>	<p>存以甘棠。去而益詠。</p>	<p>樂殊二貴。賤一禮別尊卑。</p>	<p>上和下睦。夫唱婦隨。</p>	<p>外受二傳訓。入奉母儀。</p>	<p>諸姑伯叔。猶子比兒。</p>
<p>人はすがたかたちの端正にして優美なるを思ふ。さらだるるべからず、而して又、其の思ふが如く端正優美にして、決して軽躁ならぬやうにせよといへるなり。</p>	<p>一事一業を為すには、必ず其の初めに篤く注意を加ふれば、其の事業は誠しく成らん、又其の初めは善良なるべしといへるなり。</p>	<p>榮業とは官途に就くことなり、以上述べたるが如く身の行ひを正しくすることは、乃ち官位高官に上るの基である。さすれば名聲籍甚として、其の誉は終りなく限りなく伝へらるべしといへるなり。</p>	<p>學問が衆人に優れたる人は、仕乃ち官途に就くことが容易であり、遂には重要な職を執り、國政に従ふの高位高官に昇り得らるべしといへるなり。</p>	<p>かくの如くなれば、この世に生存する間は、古、周の召公が甘棠の下にて政を聽き、万民その徳恵に浴したるが如く、又死して後は詩經の甘棠篇の甘棠勿伐の句の如く、益その徳を謳歌せらるべきなり。</p>	<p>古より音楽には、天子、諸侯、士大夫、庶民と種々區別あり、各その分により、樂し又冠、喪、禮、祭などの礼式も、それぞれ貴賤の別ありて、整然として整へり。</p>	<p>天下平らかに國家よく治まり、人君は臣民を愛くし、み、あはれみ、臣民は君を尊み敬ひて上下和らぎ睦み、又一家に、臣民は君主を尊み敬ひて上下和らぎ睦み、女子は能く服従して和合するをいふ。</p>	<p>傳とは守役のことにてなほ家庭教師の如きをいふ、外に出では傳師の訓を受けてよくこれを守り、又家には範といふに同じ。</p>	<p>「父の姉妹を姑乃ち」といひ、父の兄弟を伯叔乃ち「を」といふ、すべし。「を」といふは猶ほ子となり、又猶子とは、兄弟の子をいふ、兄弟の子は猶ほ子の如しといふより、すべし「を」をいふ「めひ」をいふ「を」と「めひ」は猶ほわが子の如くに愛くしめといふなり。</p>
<p>孔懷兄弟。同氣連枝。</p>	<p>交友投分。切磨箴規。</p>	<p>仁慈隱惻。造次弗離。</p>	<p>節義廉退。顛沛匪虧。</p>	<p>性靜情逸。心動神疲。</p>	<p>守眞志滿。逐物意移。</p>	<p>堅持雅操。好爵自縻。</p>	<p>都邑華夏。東西二京。</p>	<p>背邛面洛。浮渭據涇。</p>
<p>孔は、「はなはだ」にして別段にの意なり、兄弟は特別に親しく愛くしむべし、何となれば同じ父母の氣を受けたれたるが如く、一身同様なるべきをいふ。</p>	<p>常に交はる友は、その分に応じて意気の相合ふものを択ぶべきなり、而して相共に切つて意気の相合ふもの、如く「文學投分」を研き、互ひにその言行をいましめた、文字技芸を研き、互ひにその言行をい</p>	<p>人たるものは常に他を愛くしめ、あはれみて情深く、いふ。他の難儀を見てはこれをいひ慰めて救ひ助くることいふなり、同情もこの心にそむき離るべからざるべきをいふ。</p>	<p>節義とは、みさをを守り義理を重んずること、又廉退とは、直くして利欲に感はず人にへりくだり譲ること、に意欲の堅くして正しきをいひ、顛沛とは物の倒るる間、乃ちつかの間もこの心を虧くべからざるをいふ。</p>	<p>人の性質おちつきて靜かなるは、その情ものびらからず、動かし易からかなるは、又これに反して心定まらず、動かし易きは、その行ひもまた輕率になり、したがつて精神も疲るるをいふ。</p>	<p>人道の真を明らめ身の本分を知らんには、意志もまろらかに満足せらるべく、又事物の変遷を見てそれ到底事業を成し遂げ難きをいふ。</p>	<p>堅く正しきみさを保ち守り、この美德を離れざる時は、自然と世に知られ人に尊み敬はれて求めずして好き官爵も備はり、欲せずして富貴も自づから来り集まり身にまとはるべきをいふ。</p>	<p>都邑とは、都会繁華の市をいふなれど、ここには単に「みやこ」乃ち王城の在る所をいふ、華夏とは、中國人と長安の二つの都をいふ。</p>	<p>東の都は、北は北邛山を負ひ、南は洛川に臨む、故に洛陽と稱し、西の都長安は、渭水に面し、涇川に拠り、兩京共に地勢は山河襟帯の好位置を占めたる有名なる王城なり。</p>

<p>キユウデン 宮殿盤鬱。 ロウクワフン 樓觀飛鷲。</p>	<p>トシヤケン 圖寫禽獸。 グワサイ 畫彩仙靈。</p>	<p>ヘイシヤバウ 丙舍傍啓。 カフチヤウ 甲帳對楹。</p>	<p>シエンセツ 肆筵設席。 コヒツ 鼓瑟吹笙。</p>	<p>シヨウカイ 升階納陛。 ベンテン 弁轉疑星。</p>	<p>イウツク 右通廣内。 サタク 左達承明。</p>	<p>キシフ 既集墳典。 エキシユウ 亦聚群英。</p>	<p>トカウ 杜蘅鍾隸。 シツシヨ 漆書壁經。</p>	<p>フシヤウ 府羅將相。 ロクケフ 路俠槐卿。</p>
<p>帝都洛陽及び長安に造営せられたる宮殿は、盤桓と ひろがり、變乎と建て列立たり、その中の樓閣乃ち高き 物見台は遙かに高く聳え立ち、人をして空中に飛 べるかと驚かしむ。</p>	<p>さてその宮殿の梁及び楹などには、鳥けもの形の 寫し彫り刻み、又その棟や障子の如きも神仙の像を 極彩色も画きたる等その構造の莊嚴なるを稱讚せる なり。</p>	<p>而して又丙舎とて、宮殿の内にある或る家の如き 造ら、門の傍をひらきてその小家より出入せしむる様 に對して、その裝飾の美麗いはんかたなし。</p>	<p>かくの如き莊嚴なる宮殿に於いて、時に簾を布きの 乃ち席を設けて宴を賜はることあり、その際には、怒 乃ち吹きて欲楽を添へしむるなり、又笙といへる笛な るに對して、その裝飾の美麗いはんかたなし。</p>	<p>召に應じて參する諸侯百官は、階を升り階を上りて 宮殿内に入るも綺羅を飾り、升乃ち冠の輝くさまは、さな がら天上の星かと疑はるるなり。</p>	<p>而してその宮殿の廣大に於いて、時に簾を布きの 宮殿内に入るも綺羅を飾り、升乃ち冠の輝くさまは、さな がら天上の星かと疑はるるなり。</p>	<p>又此の宮殿内には、既に三墳五典などいへる古き書 物をおびたたく寄集められたる物も聚め納められた 今東西の世にすぐれたる多くの物を聚め納められた</p>	<p>漢の丞相杜操ははじめて草書を作り、槐の大夫鍾隸 はじめて隸書を作れり、乃ちこれら珍書のみならず 子の靈帝が石槿の中より得たる漆にて書きたる書孔</p>	<p>又政府には、天下に名を轟かせる良將、人民その徳 を慕へる賢相をはじめ百官羅り列りて政を執り、路に は三公九卿の車馬絡繹とならび統けるをいふ。</p>
<p>コウハツケン 戸封二八縣。 カキセン 家給二千兵。</p>	<p>コウクワン 高冠陪輦。 クワコ 驅轂振纓。</p>	<p>セロク 世祿侈富。 シヤガ 車駕肥輕。</p>	<p>サクモ 策功茂實。 ロクヒ 勒碑刻銘。</p>	<p>パンケイ 潘溪伊尹。 サジ 佐時阿衡。</p>	<p>エンタク 奄宅二曲阜。 ビダン 微旦執營。</p>	<p>クワン 桓公匡合。 サイヤク 濟弱扶傾。</p>	<p>クワイカン 綺回漢惠。 エツカン 說感武丁。</p>	<p>シユン 俊父密勿。 タシ 多士寔寧。</p>
<p>一戸の家祿として八県の土地を宛て行ひ、その功勞 偉勳に報い、又功勳ある人の家には千人の兵士を給ひ て守護せしめ、その所属として指揮せしむるなり。</p>	<p>高位高官の臣は、きらびやかなる衣冠を着けて、天 子の輿に陪從し、殺乃ち車を駈せ走らせて冠の紐を 振り、意氣揚々として供奉す。その儀仗の盛んなるを 形容したるをいふ。</p>	<p>祿を世々にするとは、父祖に給はりたる家祿を承け る所の車馬は肥え太りて、着る所の衣裳は軽やかに、乗 華美なる状をいふ。</p>	<p>かくの如くに功勳ある人々の富貴を極むるを見て 人は生前富貴を極むるもの多し、死して後これを 碑石に刻みて後世に伝へらるるなり。</p>	<p>樞漢は、古、周の文王を輔佐したる太公望のかつて 釣を垂れし処、伊尹は殷の湯王の臣にして官は阿衡 時の人民を助けたる賢人なり。</p>	<p>曲阜とは周の地名なり、周公旦は武王を輔佐して殷 の紂王を伐ち、此処に大なる宮殿を建て、周八百歳の基 經營を為すことを得べきぞといへるなり。</p>	<p>その後、齊の桓公は、周の諸侯伯をただし合はせ、 自らその覇者となりて、周の天子を輔佐して天下を治 めんとし、弱國を助くひ助け、傾き倒れんとす る諸侯を興されたるをいふ。</p>	<p>綺里季は漢の四賢の人なり、惠帝が未だ太子たりし 時、ほとんど廢せられんとせしを諷諭して回復したる せられたる忠良の臣なり。</p>	<p>俊父とは才智の抜群なる人、密勿とは親しみ用ゆる の意に任せる賢なる君は、才智抜群なる人物を選抜し て親任せらるるが故に、濟々たる多士として、人材多く 集まり政を執るを以て、天下まことに安寧靜謐なり。</p>

<p>晋楚更覇。趙魏困横。</p>	<p>假途滅虢。踐土會盟。</p>	<p>何遵二約法。韓弊二煩刑。</p>	<p>起翦頗牧。用軍最精。</p>	<p>宣威沙漠。馳譽丹青。</p>	<p>九州禹跡。百郡秦并。</p>	<p>嶽宗恒岱。禪主三亭。</p>	<p>鴈門紫塞。雞田赤城。</p>	<p>昆池碣石。鉅野洞庭。</p>
<p>天下乱るるに及んでは、人道漸く衰へ、天下は在れどもなきが如く、彼の魏と楚の兩國が、かはるがはるも、反つて秦の連横の計に苦しめられたり。秦に抗せし</p>	<p>晋の獻公の如きは虞の國を征すとて、道を號の國に又かり虞を討ちて備るるときは遂に亡ぼしたり。周の天子を敬ひ朝貢を怠らざらんことを盟ひしも、終に行はれざりしなり。</p>	<p>漢の高祖が天下を定めし時は、蕭何これを輔佐して、秦の苛法を除きて法を三章に約して國治まりし布さしかば、その煩はしき為に政は廢れ國はつかれたるなり。</p>	<p>頗とは白起にして翦は王翦なり、共に秦の將軍たり、又頗とは廉頗をいひ牧とは李牧をいふ、この二人は趙の將軍なり、この四人は軍略に長じ用兵に最も精しくして、世にすぐれたる名將なりしなり。</p>	<p>さればこれら將軍は、その威名は普く四海を轟かすれ、武功を記されて、譽を後世に伝えられたるなり。</p>	<p>九州とは中国古代の本土にして、冀、青、徐、魯、豫、梁、雍の九州をいふ、禹はこの九州を巡りて水利を治め農業を勸めて天下を治められたり、秦の始皇が天下を一統するに至り國を百郡に分たれたり。</p>	<p>嶽とは山なり、乃ち山は恒山と岱山とをたつとぶ、いはゆる天下の名山となし、又封禪の地として、云々山と亭々山を主となし、これより以下八句は中国古代の地理形勢を示したるなり。</p>	<p>鴈門とは山の名にして、鳥も越えかねるといへる高きなり、紫塞は万里の長城にして、その色よりして稱せらる、又雞田とは古駅の名にして、赤城は周時代に關門のありし所なり。</p>	<p>昆池とは、昆明と稱する有名なる池にして、滌水は原名なる山なり、碣石は楚の國と吳の國との間にある湖水の洞庭は楚の國との間にありし湖なり。</p>
<p>曠遠緜邈。巖岫杳冥。</p>	<p>治本於農。務茲稼穡。</p>	<p>椒載二南畝。我藝黍稷。</p>	<p>稅熟貢新。觀賞黜陟。</p>	<p>孟軻敦素。史魚秉直。</p>	<p>庶幾中庸。勞謙謹勅。</p>	<p>聆音察理。鑑貌辨色。</p>	<p>貽厥嘉猷。勉其祗植。</p>	<p>省躬讎誠。龍增抗極。</p>
<p>以上の原野、湖水その他名所古蹟など、ひろく遠くは遙かに連なり、又巖岫にははしく高き大なる山々如くなるをいふ。</p>	<p>天下を治むるの要素は農を以て本とす、乃ち農は國を立つる基礎なるが故に務めて稼穡の道を怠らざらんことを期すなり、稼と穡とは植ることと種とは収むることなり。</p>	<p>椒は始めてなり、乃ちはじめて日あたりよき南向きの田畝に耕作して、農業を勉め勸みて怠らざるといへるなり。</p>	<p>さてその穀物が美り熟したならば、その幾分を租税として納め、その新しきを貢として奉ること、これ農家の務めなり、されば上はその位を勸め助ますに賞を以てし、その勤怠によりて或は位をさづけ又はしりぞくるなり。</p>	<p>軻は世に名高き賢人孟子の名なり、孟軻乃ち孟子は史魚は、質直として少しもまがりたる心なき至つて直き人にてありしなり。</p>	<p>中とはかたよらぬこと、庸とは常にしてかはらぬこととなり、この中庸なることを希ひ望みてこれを得、又勞謙とは、もつばらんにへりくだりゆづり、謙勅乃ちその言行をつつしみて、方正実直なるなり。</p>	<p>その首を聞きてそのすぢみちを察し知り、又その容貌を見て喜怒哀楽の情を弁別するなり、乃ち何事に注意を怠らずして、是非善悪を見分けよとの意なり。</p>	<p>嘉猷とは、よきはかりごととなり、人道を守りてよく一家を経営するの計画を子孫にのこし、又常に仁義忠孝の道を守り、勉めて身を立て家を興すべしとの教えなり、祗はつつしむこと植は立つことなり。</p>	<p>自らかへりみて過ちなきやと心がけ、事と物とに注の嫉して慎しむべし、君の龍增増すとときは、注を察することあるべきなり。</p>

タイジヨフキン 近キチ
殆辱近耻
君の寵愛いやまして高位厚禄を給はるときは、他のよかかたる兆しあらば、速かに身を退きて山林に隠遁せよといへるなり。

リンカウ 幸ソク
林阜幸即
ねたみを受け冤罪に陥しらるるも計られず、さればよかかたる兆しあらば、速かに身を退きて山林に隠遁せよといへるなり。

リヨソケンキ
兩疏見機
古、疎広、疎受といへる賢人あり、父の疎広は足るを知れば危ぶべからずといひ、子の疎受は功成り名遂らば、誰かまたこれを讓しこれを見て冠の組紐を解き去るのあらんといへるなり。

カイソフスキヒヨク
解組誰逼
かくして住居を閑静なる所にもとめ、富貴榮華にあらずして、世との交はを絶ち世事もたづさはらぬに、世との交はを生ずることなく、のどかに楽しむを得らるべきなり。

サクキヨカンシヨ
索二居閑處一
沈黙寂寥
而して古人の書を読み、古人の道を探ねてそれをあけつらくなり、その真理を究めんには、世の煩さき交はりもなく、随つて心を勞はすにも及ばず、天眞爛漫の樂しきを得らるべきなり。

チンモクセキレウ
沈黙寂寥
かくして住居を閑静なる所にもとめ、富貴榮華にあらずして、世との交はを生ずることなく、のどかに楽しむを得らるべきなり。

キウコジンロン
求古尋論
散慮逍遙
かかれれば心は常にたのしくして欣喜の情は内心に動かし、世故のわづらひはいつりて皆去りつくすべし、たれば悲しき事のみ招かずとも自づから来るべきなり。

サンリヨセウエウ
散慮逍遙
かかれれば心は常にたのしくして欣喜の情は内心に動かし、世故のわづらひはいつりて皆去りつくすべし、たれば悲しき事のみ招かずとも自づから来るべきなり。

キンソクケン
欣奏果遣
感謝歡招
渠とは溝のことなり、荷は蓮なり、みぞの中に咲きたる蓮も池の底に枯れ、園に生ずる草も刈られ、雑草も強ち捨つべからざるをいふ。

セキシヤクワンセウ
感謝歡招
かかれれば心は常にたのしくして欣喜の情は内心に動かし、世故のわづらひはいつりて皆去りつくすべし、たれば悲しき事のみ招かずとも自づから来るべきなり。

キヨカテキレキ
渠荷的歴
園莽抽條
渠とは溝のことなり、荷は蓮なり、みぞの中に咲きたる蓮も池の底に枯れ、園に生ずる草も刈られ、雑草も強ち捨つべからざるをいふ。

エンモウチウデウ
園莽抽條
かかれれば心は常にたのしくして欣喜の情は内心に動かし、世故のわづらひはいつりて皆去りつくすべし、たれば悲しき事のみ招かずとも自づから来るべきなり。

ヒハバンスキ
枇杷晚翠
梧桐早凋
此枇杷は、さまで見どころなきものなれども、その葉は冬に至るも色うつろはずして緑なり、又あをきりはつるものなり。

ゴトウサウテウ
梧桐早凋
此枇杷は、さまで見どころなきものなれども、その葉は冬に至るも色うつろはずして緑なり、又あをきりはつるものなり。

チンコンキ
陳根委翳
落葉飄飄
古き根はすたれしほみ、おち葉は風にひるがへる、以上六句は、人世の栄枯盛衰一様ならず、富貴も衰ひべからず、貧賤も悔るべからざるを諷諭せるものなり。

ラクエウヘウエウ
落葉飄飄
古き根はすたれしほみ、おち葉は風にひるがへる、以上六句は、人世の栄枯盛衰一様ならず、富貴も衰ひべからず、貧賤も悔るべからざるを諷諭せるものなり。

イウコンドウ
遊鷗獨運
凌三摩絳霄一
遊鳥の鳴とは荘子にいふところの空中をかけ舞ふ大なる鳥の連なり、降霄乃ち日の暮乃ち赤き空を凌ぎて高く飛びかけるさまをいふ。

リヨウマカウセウ
凌三摩絳霄一
遊鳥の鳴とは荘子にいふところの空中をかけ舞ふ大なる鳥の連なり、降霄乃ち日の暮乃ち赤き空を凌ぎて高く飛びかけるさまをいふ。

ゲンカシユエン
絃歌酒讌
接杯舉觴
絃とは琴などの糸を弾きて鳴らす楽器をいふ、時とては、樂を奏し詩歌を吟唱して酒宴を催し、互ひに杯を接ぎ、酒を酌み交はし遊び興するをいふ。

セツハイキヨシヨウ
接杯舉觴
絃とは琴などの糸を弾きて鳴らす楽器をいふ、時とては、樂を奏し詩歌を吟唱して酒宴を催し、互ひに杯を接ぎ、酒を酌み交はし遊び興するをいふ。

グワンセンケツ
管扇圓潔
銀燭焯煌
管扇とは絹にて張りし扇子にして、その形は丸く、又白かなるものなり、熱ければこれにて涼を納れ、かややく渡りて屋の如くなり、室内は光りまばゆく。

ギンシヨクキクワウ
銀燭焯煌
管扇とは絹にて張りし扇子にして、その形は丸く、又白かなるものなり、熱ければこれにて涼を納れ、かややく渡りて屋の如くなり、室内は光りまばゆく。

チウミンセキ
晝眠夕寐
藍筍象床
晝寝夕寝は、いぬるに、ゆるべはいぬるに、

ランジュンヤウシヤウ
藍筍象床
晝寝夕寝は、いぬるに、ゆるべはいぬるに、

<p>矯手頓足。悦豫且康。</p>	<p>嫡後嗣續。祭祀蒸嘗。</p>	<p>稽顙再拜。悚懼恐惶。</p>	<p>牋牒簡要。顧答審詳。</p>	<p>骸垢想浴。執熱願涼。</p>	<p>驢驥憤特。駭躍超驥。</p>	<p>誅斬賊盜。捕獲叛亡。</p>	<p>布射遼丸。碁琴阮嘯。</p>	<p>恬筆倫紙。鈞巧任鈞。</p>
<p>酒宴遊興の間には、或は手をさげたり足をあげたりなどして且踊りて飲樂を為す、されば色よろこび心たのしくつやすらかなるをいふ、以上十数句は富貴にして一家団楽の樂しみを尽すのさまをのべしなり。</p>	<p>嫡とは、正妻の長子にして惣領息子なり、父の後を祖先の一家を相続するものなり、されば四時に怠らず、秋は嘗、冬を蒸といふなり、春は杓、夏は</p>	<p>稽顙とは、頭を地につくことなり、乃ち祭典の時、頭を地につけて再び拝をなし、をそれを心もてこれを営むべきものなるをいふ。</p>	<p>牋牒は共に紙のことなり、されどここにては手紙をいふ、すべて手紙を認るには、さだしくだしからぬやう、手短かにその要を摘みて書くべし、さりながら訪ひおとづれの文は委しくつまびらかに認むべきなり。</p>	<p>骸とは身体のことなり、身体垢つけば湯あみして洗ひ清めんことを思ひ、又あつきにおぼはるときには涼氣を納れんことを願ふ、これ人情の自然にして免れがたき所なり。</p>	<p>驢は家の兒なり、又駭は(おどろき)驥は(おどろし)超は(こゆる)驥は(あがる)なり、これ等すべての家畜は、かくして遊び戯れつつあるをいふ。</p>	<p>すべて人を害ひ、物を奪ひ盗みなどする兇悪なるものを斬りころし、又君に背ける叛人、或は悪事を為せる逃亡人などは、悉く捕へてそれ刑罰に行ふべきなり。</p>	<p>布は呂布といひて弓射ることに長けたる人、選は宣選として手玉を取るに妙を得たる人、又碁叔夜といひて碁を弾するに巧みなる人、阮は阮嗣宗として頗る詩吟を能くする。</p>	<p>又樂の装飾は、削めて筆を作り、漢の祭儀は削めて紙を作り、馬鈞といへる人は巧みなる指南車をつくり、任公といひし人は魚を釣るに妙を得たり、以上は何れも天下に名高き人々なり。</p>
<p>禪紛利俗。並皆佳妙。</p>	<p>毛施淑姿。工嘖妍美。</p>	<p>年矢每催。曦暉朗曜。</p>	<p>璇璣懸斡。晦魄環照。</p>	<p>指薪脩祐。永綏吉劬。</p>	<p>矩步引頹。俯仰廊廟。</p>	<p>束帶矜莊。徘徊瞻眺。</p>	<p>孤陋寡聞。愚蒙等誥。</p>	<p>謂語助者。焉哉乎也。</p>
<p>粉々と乱れたる事物を理め解きて、世俗に種々の利益を与ふることその身を委ねたるこれらの人々は、並びに皆その芸術に達して佳妙の境に入りたるなり。</p>	<p>毛とは呉の毛氈のこと、施とは越の西施がことなり、この二人は容姿優れて清らかなる美人にして、巧みに艶なるとして、眉をしまつて幽める様を、共に見るものをして恍惚たらしめしなり。</p>	<p>年矢とは、年月のことにて、光陰は矢の如く、時々刻々にうつり往きてまた還らざれど日乃太陽は照りかがやき、月は光り朗らかに、万物その恵みを受くることは変りなきなり。</p>	<p>璇璣とは、渾天機のことにして、天文を窺ひ見る器械なり、懸斡とは、高きにかかりめぐること、又晦が常に運行循環して天地間を照らすをいふなり。</p>	<p>指薪とは、薪を指しよく燃えて尽くることなきが如く、我人も行ひを正しふし道にそむかずして勉めば世を終るまで安寧なるべく、幸福を得て永く安らかなれば、心も楽しく喜びて務めに服し得べきなり。</p>	<p>道を行くには、一歩も法に違はざるべく、領を上げ正しく歩むべし、廊廟とは、官殿のことにて、かかものなるをいふ。</p>	<p>束帶とは、衣冠束帯の略にして、官位に相応したる服装を着けたるときは、その容儀を、官位に相応したる威儀を保つべきなり、又徘徊とは、ゆきつもとどつとすること、瞻眺とは、ながめ見ることなり。</p>	<p>孤陋とは、才智なく識量の狭きをいひ、寡聞とは、見聞のすくなきをいふ、己れはかかる器物なれば、無智文盲の輩と同じくそしめはかる器用なる所なり、と、著者自身を謙遜せし句なり。</p>	<p>語助とは、すべて文章には「たすけことば」といふものあり、その数少なからざるも、中について常に最も多く用ひられるものは、焉、哉、乎、也の四字なり。</p>

昭和十三年六月二十五日 印刷
昭和十三年六月三十日 発行 三体千字文
平成二十二年七月十三日 再版

不許

複製

著者 藤田民次

発行者 石澤康仲

印刷所 三研印刷株式会社

〒170-0004

東京都豊島区北大塚1-20-13
102
発行所 紫雲書道研究会

TEL 03-3940-1310